２０２３年12月26日
第86号

JR東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本
発行人 助川一実
編　集情宣担当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

イーハトーブ

１２月２５日号

産業革命、18世紀にはじまった第一次産業革命は、石炭燃料（蒸気機関）を用いて工業を機械化。以降、第二次産業革命では燃料は石油に変わり、更なる機械化と大量生産を可能とした。第三次産業革命では機械・コンピューターによる単純作業の自動化があった。第四次産業革命にあると言われる今日は、機械による知的活動～個別生産化ＡＩやＩｏＴが高度な知的活動を担うと言われている。技術の進歩は豊かな社会をもたらしたと同時に、働く者の側からみると不安や格差を増大させた。ＳＦ作家のアイザック・アシモフが「ロボットがロボットとして取るべき行動」として、「人間に危害を加えてはならない」「人間の命令に従わなければならない」「自己を守らなければならない」という3点を記している。いわゆるロボット三原則である。この考え方は、自我を持ったロボットが人間のように葛藤したり、あるいは人類の敵として立ちはだかったりと、多くの小説や映画で人間社会への比喩的表現として使われているが、根底にあるのは人々の見知らぬものへの直観的不安ではないか。

デジタル技術の進歩、ＡＩ（Ａｒｔｉｆｉｃｉａｌ　Ｉｎｔｅｌｌｉｇｅｎｃｅ～アーティフィシャル・インテリジェンス）という技術は今までにも生活の中で活用されてきているが、生成ＡＩと言われるようになって、その進歩は驚異的なものがある。「ＣｈａｔＧＰＴ」は蓄えたデータを基に、問いかけに対して即座に回答してくれることで話題となっている。また生成ＡＩは、文章だけではなく画像までも作り出すことができるようになり、専門家でさえ生成ＡＩによって作り出されたものと見破ることは難しいようだ。便利である反面、まだ途上の技術であり、間違った回答をすることもある。さらに収集したデータに偏りがあれば、データを覚えこませる者の意図が入れば、正しい答えとは言えなくなる。ＡＩを利用した意見発信や犯罪に対して、法律が追いついておらず、混乱も生じている。ＡＩの膨大なデータを瞬時に処理して回答を出すという人にはできない能力は「特性」であり、万能ではないということである。現時点では良くも悪くも利用する者の働きかけ（意思）がなければその力は発動しないが、人は平和を求めて争いを起こし平和を壊す。そこでいう平和とは何か、誰のためのものか。今私たちが確立しておかなくてはならないことは「騙されない」ということである。目に見えていることが全てではないことを心に据えなければならい。そのために周囲に気を配る、必ず相手の話を聞く、何事も裏付けをとる、そして皆で話し合って未来を創造する。誰のために、弱きもののために。

（Ｙ・Ｈ）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。